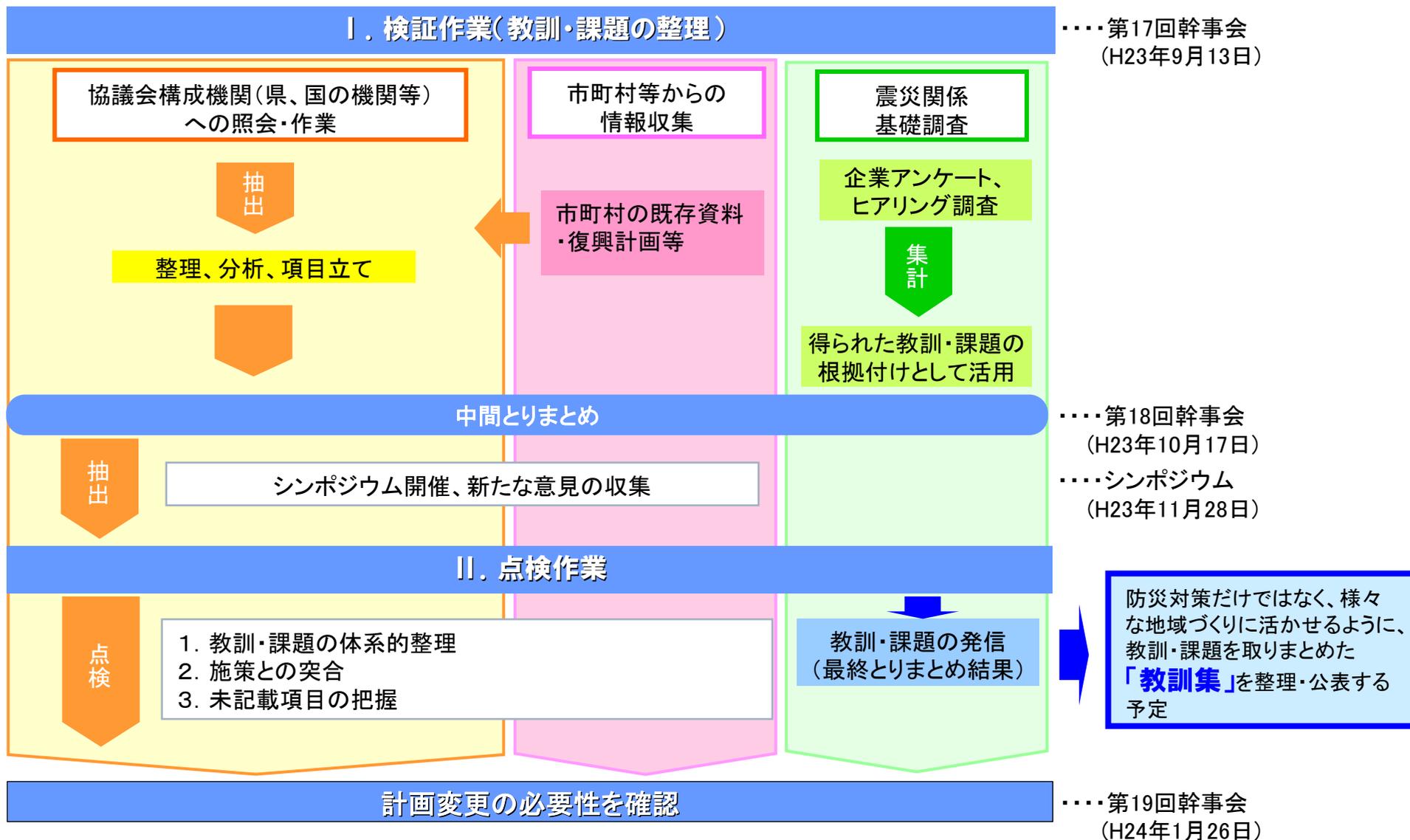


東北圏広域地方計画見直しにおける これまでの検討結果について

東北圏広域地方計画推進室

平成24年6月15日

1. 東北圏広域地方計画の検証・点検作業の流れ



2. 東日本大震災の「教訓・課題」の整理

「教訓・課題」の調査方法

- ◆ 東北圏広域地方計画協議会構成機関を対象に、震災における「教訓や課題」を聞き取り
- ◆ 国土審議会等の提言や県・市町村の復興計画等から「教訓や課題」を抽出
- ◆ 収集した「教訓や課題」は、提案内容に応じて、8つの項目に分類して集計

【教訓・課題の集計結果】

機 関 名		提案数
被災自治体	青森県	15
	岩手県	87
	宮城県	29
	福島県	156
	仙台市	18
その他自治体	秋田県	16
	山形県	20
	新潟県	20
	その他（富山県・新潟市・新潟県長岡市）	8
国出先機関	国交省（東北地方整備局ほか）	38
	その他（東北管区警察局、東北農政局ほか）	35
経済界	社団法人新潟県商工会議所	1
各種提言等からの抽出	東日本大震災を踏まえた緊急提言	31
	災害に強い国土づくりへの提言	57
	復興への提言	36
	東日本大震災からの復興基本方針	41
	東北圏シンポジウム（H23. 11. 28）	25
その他（自治体復興計画等）	16	
計		649 提案

【教訓・課題の分類】

教訓・課題（大項目）	提案数
① 広域的・多様な主体による連携・支援のあり方	54
② 災害に強い広域交通基盤の整備について	88
③ 災害に備えた情報通信のあり方	78
④ エネルギーの安定供給に向けて	24
⑤ 産業の再生・復興の方向性	63
⑥ 暮らしの再生、安全・安心な地域づくりに向けて	284
⑦ 原発・放射能への対応	41
⑧ その他	17
計	649 提案

注) 東北圏広域地方計画協議会 構成機関

【被災自治体】青森県、岩手県、宮城県、福島県、仙台市

【その他自治体】秋田県、山形県、新潟県、新潟市等

【経済界】(社)東北経済連合会、東北六県商工会議所連合会、
(社)新潟県商工会議所連合会

【国の地方行政機関】東北地方整備局ほか

3. 東北圏広域地方計画 WGによる検討結果

【WGによる検討】 構成機関実務者による短期間に効率的な議論を実施(2月に集中し3回開催)

1. 検証・点検結果により反映すべき課題の設定
2. 変更の基本的考え方
3. 目次構成検討
4. 施策体系の検討



【検証・点検結果により明らかとなった12の課題】 ～計画変更反映すべき項目～

①広域的な機能分担を踏まえた広域的な地域間連携の促進、協力体制の構築

- ・ 非常時における国や地方の役割の明確化、支援体制の検討
- ・ 通常時も含めた圏域内、他圏域における地方公共団体との連携 など

②多様な交通モード間の相互補完、広域交通ネットワークの代替性・多重性の確立

- ・ 高速道路網のミッシングリンクの解消によるリダンダンシーの確保
- ・ 道路、鉄道、港湾等を含めた総合的な交通体系の整備 など

③災害時の通信環境の確保、バックアップも含めた情報通信のシステムの構築

- ・ 非常用電源の確保
- ・ 衛星携帯電話等多様な通信手段の確保 など

④様々な災害リスクを軽減する総合的な地域づくり・まちづくりの推進

- ・ 津波防災に向けた防波堤や町の高台移転など災害時の被害を最小化する対応策
- ・ 沈下、液状化対策など庁舎の防災機能強化 など

⑤防災訓練・教育の充実強化や災害の記録と伝承

- ・ 様々な災害への応急対応や広域対応を含めた防災訓練の実施
- ・ 地震、津波、原発災害などの記録・教訓の収集・保存・伝承 など

⑥再生可能エネルギーの拡大とエネルギーの安定供給

- ・ 非常時にも電力等のエネルギー供給が可能な仕組みのまちづくり
- ・ 再生可能エネルギーの導入促進による環境に配慮したまちづくり など

⑦災害時における医療体制の強化や安心できる地域医療・福祉サービスの確保

- ・ 災害時の医療救護体制の充実や医療機関のライフラインの確保
- ・ 病院、診療所、福祉施設、在宅サービス事業者等の連携強化や情報共有など

⑧災害時にも強い供給網の構築と円滑な物流の確保

- ・ サービスや商品の供給が途切れない企業間の協調体制構築
- ・ リスク分散のための生産・物流拠点の整備・再配置 など

⑨水産資源をはじめとする様々な地域資源の回復と地域産業の経営強化

- ・ 水産業集積拠点の再構築
- ・ 復旧復興に貢献する地域産業等の活動支援 など

⑩地域のコミュニティ確保のための絆の構築

- ・ NPO、ボランティアなど「新しい公共」の支援拠点の確保
- ・ 地域防災リーダーの養成など非常時の人材確保・養成 など

⑪復興に向けた新しい地域づくり

- ・ 地域コミュニティの再構築に向けた交流の場の確保
- ・ 被災都市の復興のための市街地の移転、整備など再構築 など

⑫原発事故がもたらした被害に対する多様な対策

- ・ 日本ブランドの信頼性の回復のための風評被害の払拭
- ・ 国内外から観光客誘致に向けたキャンペーン強化、線量測定による情報提供 など

計画変更の基本的考え方

計画の変更は、広域地方計画の持つ役割、位置づけ（計画の指針性・先導性・広域性）を踏まえつつ、抽出された課題を受け、以下の変更の基本的考え方を整理する。



【3つの基本的考え方】

東日本大震災からの復興とともに未来を担う東北圏づくり

【設定理由】大震災の復興はもちろん、日本の未来を見据えた東北圏の発展性を有する施策やビジョンも目指すこと。

全国モデルとなる災害に強くしなやかな東北圏の形成

【設定理由】今後、巨大で複層的な災害に見舞われても、防災・減災により東北全体としての強靭性を発揮し、地域が持続可能で活力ある災害に強い地域ビジョンを打ち出すとともに、他地域の規範となるものを目指すこと。

東北圏の一体感を高める多様な連携の強化

【設定理由】協議会の構成機関が個々に取り組むだけでなく、構成機関を含め東北の産学官全体で連携することにより相乗効果、一体性強化が期待できる効率的・広域的なプロジェクトの提案を目指すこと。

【まとめ】被災地の復興無しに東北圏の発展は無しとの立場から、東日本大震災の復興にとどまることなく、他地域との連携を図りつつより安全で安心できる新しい日本の規範となる創造的な国土の形成を東北圏が一体となって目指すこと。（ハード・ソフトの防災施策や産業及び地域間の連携施策により確かな復興と新たな圏域を創造すること。）

計画変更にあたっては、この3つの基本的考え方を念頭に作業を実施

5. 東北圏広域地方計画 現行計画目次構成

第1章 計画策定の目的 第1節 計画策定の目的 第2節 計画の対象区域と計画期間 1.対象区域 /2.東北圏の位置づけ /3.計画期間

第2章 東北圏を取り巻く状況と地域特性

- 第1節 東北圏が歩んできた歴史
- 第2節 東北圏の特徴と魅力
- 第3節 東北圏を取り巻く潮流
- 第4節 東北圏発展の課題

第3章 これから10年で東北圏が目指す姿

第1節 東北圏の新しい将来像

- 1. 新しい将来像
- 2. 計画の基本方針
 - (1)人と自然が共生し地球に優しく生命力あふれる空間の形成
 - (2)自立的・持続的な成長を実現する東北につぼん自立経済圏の形成
 - (3)一人ひとりの自立意識と協働で創る東北圏の形成
- 3. 新しい将来像実現のための5つの戦略的目標

第5章 広域連携プロジェクト

- 1.東北圏のポテンシャルを活かした低炭素・循環型社会づくり
- 2.歴史・伝統文化、自然環境の保全・継承
- 3.日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震等大規模地震災害対策
- 4.地球温暖化に伴い高まる自然災害リスクへの適応策
- 5.豪雪地域の暮らし向上
- 6.都市と農山漁村の連携・共生による持続可能な地域構造形成
- 7.地域医療支援
- 8.次世代自動車関連産業集積拠点形成
- 9.農業・水産業の収益力向上
- 10.「日本のふるさと・原風景」を体験できる滞在型観光圏の創出
- 11.グローバル・ゲートウェイ機能強化
- 12.環日本海広域交流圏の形成
- 13.地域づくりコンソーシアム創出による地域支援

第4章 戦略的目標と実現のための主要な施策

第1節 恵み豊かな自然と共生する環境先進圏域の実現

- 1. 地球環境保全のための低炭素社会・循環型社会の構築
- 2. 美しい四季に彩られる森林や田園、川や海辺の保全と継承
- 3. 豊かな水環境と海域の環境保全・再生・利用

第2節 雪にも強く安全で安心して暮らせる温もりのある人に優しい圏域の実現

- 1. 災害に備えたしなやかな圏域の形成
- 2. 冬に強い地域づくりの推進
- 3. 都市と農山漁村の共生と交流を推進する持続可能な生活圏域の形成
- 4. 地域の持続的な発展の核となる活力ある都市の形成
- 5. 暮らしやすい農山漁村の形成
- 6. 人に優しい圏域づくり

第3節 地域の資源、特性を活かした世界に羽ばたく産業による自立的な圏域の実現

- 1. 国際競争力を持つ産業群の形成
- 2. 地球に優しいエネルギーの安定供給と世界を先導するエネルギー技術開発の推進
- 3. 東北圏の総合力が支える持続可能な農林水産業の創出
- 4. 東北圏ならではの地域資源を活かした観光交流の拡大

第4節 交流・連携機能の強化による世界に開かれた圏域の実現

- 1. 「環太平洋・環日本海ゲートウェイ」の形成
- 2. 高速交通交流圏の形成
- 3. 圏域内外を結ぶ多様で重層的なネットワークの形成

第5節 東北圏民が一体となって地域を考え行動する圏域の実現

- 1. 「東北につぼん」を創造する地域づくり協働体の構築
- 2. 「東北につぼん」の創造を支える人材の育成と活用

第6章 計画の推進に向けて

- 第1節 計画の効果的推進 1. 計画の推進 / 2. 効率的・効果的な施策の実施 3. 計画のフォローアップ

第2節 他圏域及び他計画との連携

6. 追加戦略的目標と主要な施策

【追加の戦略的目標】 標題[(仮)東日本大震災からの復興とともに災害に強い圏域の実現]

< 主要な施策 >

標題[(仮)地域資源を活かした産業の振興と暮らしを支える地域づくり]

[生業・暮らし]

課題⑨, ⑪, ⑫
被災地の復興として、地域
産業や暮らしを支える施策

[連携・交流基盤]

標題[(仮)広域災害に備えた地域間連携を
図るための体制と社会基盤の構築]

[安全・安心]

標題[(仮)様々な災害リスクを軽減する安
全な圏域の形成]

課題①, ②, ③, ⑧
広域な大規模災害に備えたハー
ド・ソフト基盤、連携に向けた施策

課題④, ⑤+現行計画の防災施策
様々な災害に対応する防災施策と
訓練や記録と言ったナレッジ施策

下支え

※⑥(エネルギー)、⑦(医療、福祉)、⑩(新たな公)の3つ課題については、関係する分野が重複するとともに、いずれも現行の経済社会を支える基礎的な施策であることから、現行計画の関連する主要な施策で整理することを基本とするが、震災との結びつきが強い部分もあるため、追加する施策体系の中で重複整理することも考慮することとする。

【現行計画の関係する主要の施策位置】

- ・課題⑥(エネルギー)は現行計画の第3節2項
- ・課題⑦(医療・福祉)は現行計画の第2節6項
- ・課題⑩(新たな公)は現行計画の第5節1,2項

7. 東北圏広域地方計画 変更の体系図

□ : 「検証・点検結果により明らかとなった課題」を反映する部分

変更の基本的考え方

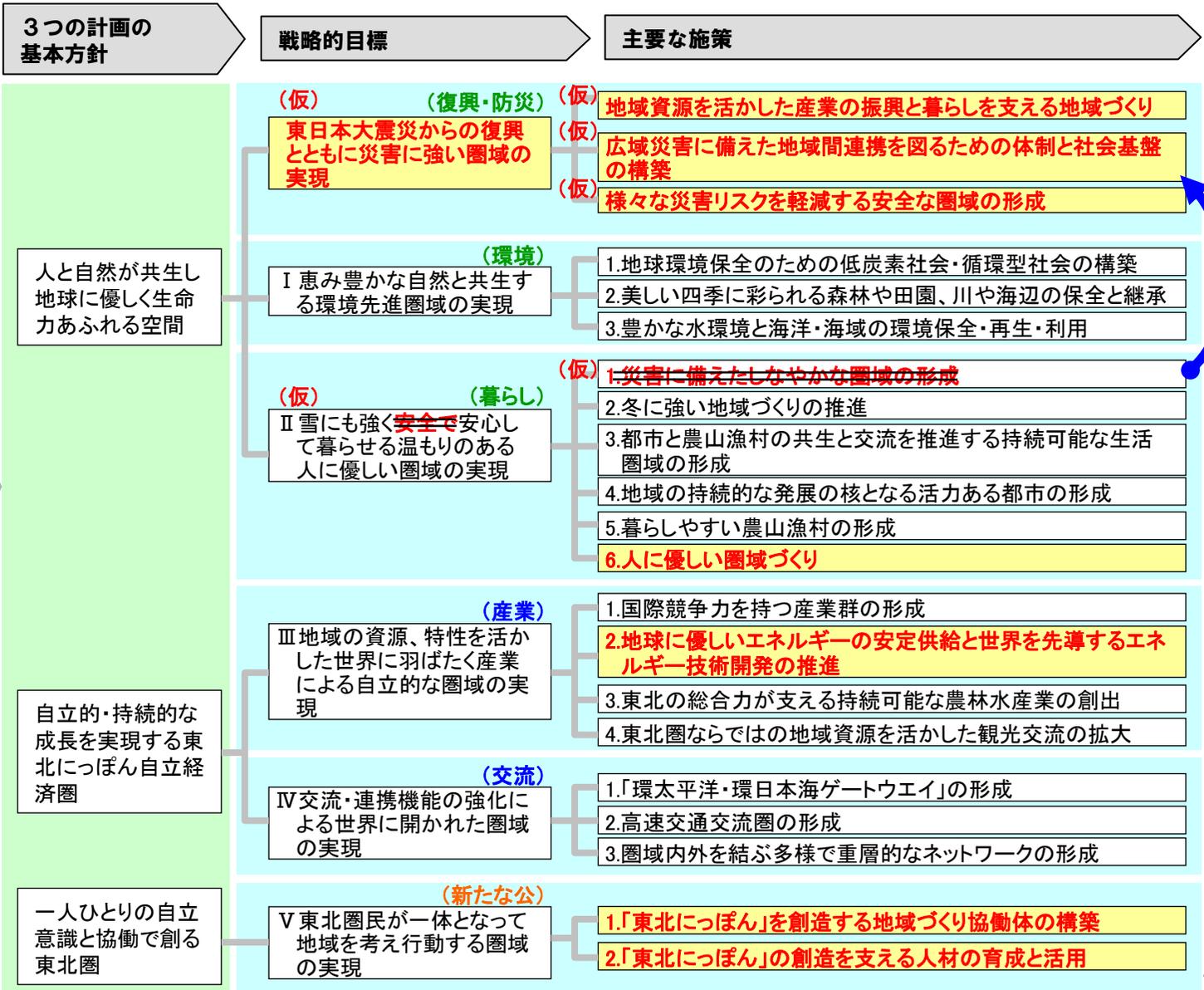
- 東日本大震災からの復興とともに未来を担う東北圏づくり
- 全国のモデルとなる災害に強くなやかな東北圏の形成
- 東北圏の一体感を高める多様な連携の強化

東北圏の新しい将来像

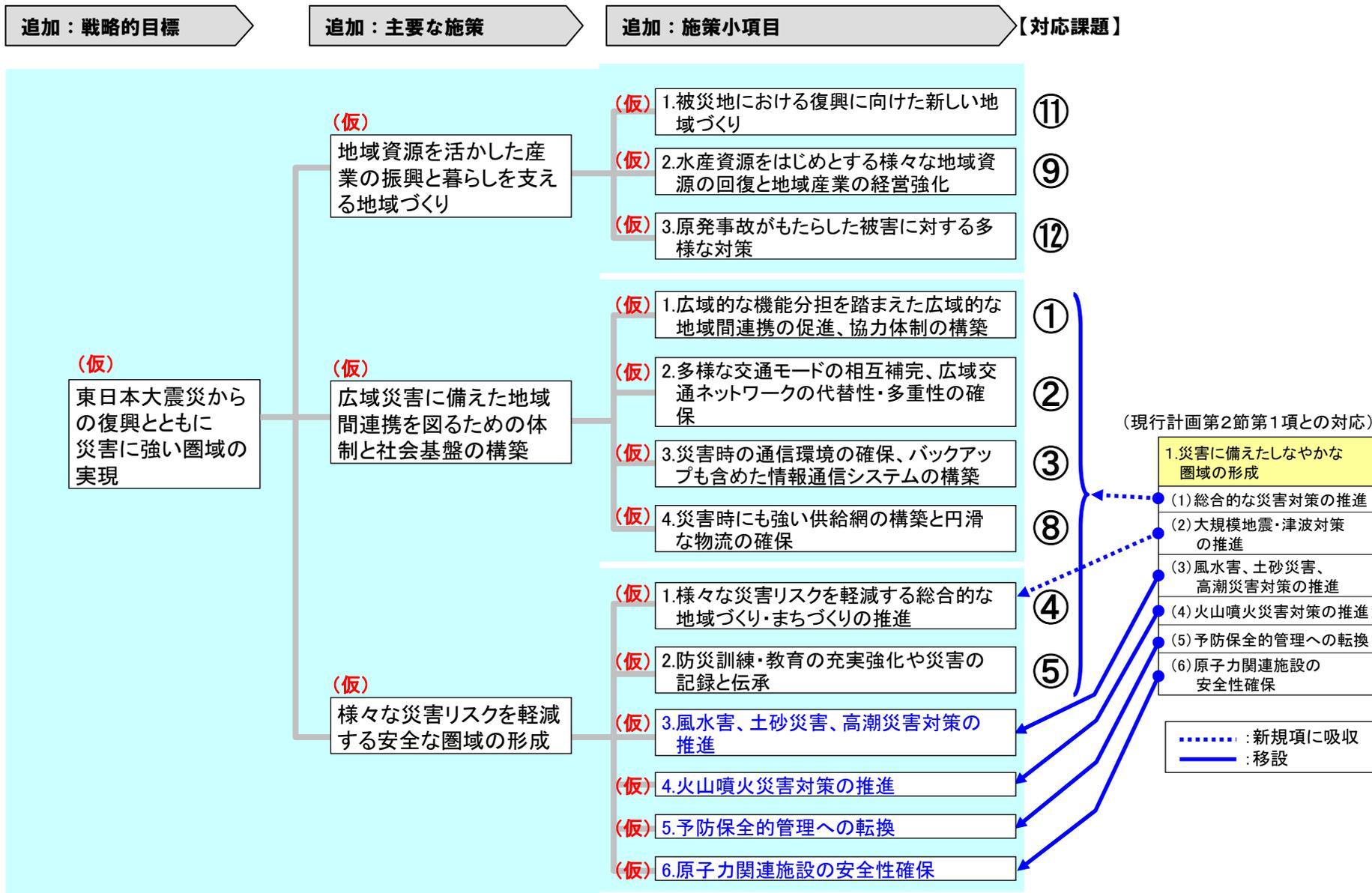
豊かな自然の中で交流・産業拠点として発展するふるさと「東北につぼん」

計画理念

美しい森と海、人と息吹と躍動感に満ちた『東北につぼん』の創造



8. 追加する戦略的目標の施策体系図



9. 東北圏広域地方計画 目次構成考え方

【現行計画の章立て】

- 第1章 計画策定の目的
- 第2章 東北圏を取り巻く状況と地域特性
- 第3章 これからの10年で東北圏が目指す姿
- 第4章 戦略的目標と実現のための主要な施策
- 第5章 広域連携プロジェクト
- 第6章 計画の推進に向けて

部分的な変更であることから、
現行計画の6章立ては変更しない

【各章の主な変更の考え方】

第1章 計画策定の目的

「計画策定の目的」に今回の変更に至った背景や必要性、
変更にあたっての基本的考え方を追記。

第2章 東北圏を取り巻く状況と地域特性

12の課題を導き出すための論拠付けの観点から整理。

- ・ 第1節 東北圏が歩んできた歴史
自然災害の歴史を追記
- ・ 第2節 東北圏の特徴と魅力
平泉の世界文化遺産登録、
再生可能エネルギーのポテンシャル等を追記
- ・ 第3節 東北圏を取り巻く潮流
近年の社会情勢の変化に基づき修正
(人口減少高齢化、国際競争力の激化、地球環境
問題の顕在化、多発する自然災害等)
- ・ 第4節 東北圏発展の課題
広域的な地域連携の推進、広域交通基盤のリダン
ダンシーの確保、多様な通信手段の活用等、減災
など災害への対応力、エネルギーの多様化、地域
産業の活性化等を追記

第3章 これからの10年で東北圏が目指す姿

東日本大震災によって明らかになった地域整備の課題に
対する対応内容を追記。

第4章 戦略的目標と実現のための主要な施策

12の課題を位置づけする戦略的目標と主要な施策の追加
(前項で整理)

第5章 広域連携プロジェクト

- ・ 現在の13広域連携プロジェクトに対する追加施策、
及び新たに4章に追加になった主要な施策を踏まえ、
新たな広域連携プロジェクトを検討。
(構成機関に提案を依頼予定)

第6章 計画の推進に向けて

(変更無し)